

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472700414
法人名	医療法人 桜木記念病院
事業所名	グループホーム 桜木さん
所在地 (電話番号)	多気郡多気町仁田ヲシ山670-20 (電話) 0598-39-6262
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 11 日(火)

## 【情報提供票より】 (H19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 4人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 60,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

### (4) 利用者の概要( 11 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 桜木記念病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の名称は、母体の病院が古くから親しみを込めて「桜木さん」と呼ばれていたことからこの名称がついた。当法人は地元では知名度も高く地域とのつながりも深い、事業所自体は隣町に開設されたこともあり地域との交流を模索中である。利用者の日常活動については押し付けにならない様に配慮すると共にやる気を引き出すような雰囲気作りや声掛けが行われている。食事の準備、畑仕事、貼り絵、習字等利用者の生き生きとした顔がそこには見られた。「新しいことに挑戦してばかりではついてこれない利用者の姿を目にし、日向ぼっこひとつで心が静まり充実した笑顔が見られる。」このような中で介護の難しさと喜びを知り、日々成長させられている自分に気づくことが嬉しいとの職員の笑顔が印象的であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善点として指摘のあった項目については職員会議で検討し、書式や処理方法の変更等可能なものから順に改善している。なお市町との関わり等、時間的経過が必要なものについては継続的な取り組みが行われている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はサービス評価の意義をよく理解し、職員の意見も聴取しながら自己評価を行った。その課題については全職員で共有している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>早い段階から計画を進めてきたが、行政等との調整が付かず現在に至っているが第一回を12月中に開催の予定である。事業所のサービス提供内容や改善課題等具体的な協議事項を提案し形式的な会議にならないよう工夫されることを期待する。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態、預かり金の収支報告、職員異動など家族が知りたい情報を把握して「ホーム日誌」の送付と合わせ定期的に情報提供されることを期待したい。家族会はないが面会や行事参加の時に個々に相談を受けている。苦情対応窓口も設置し、出された意見・要望についてはミーティング等で検討し利用者・家族に説明している。</p>
重点項目③	
重点項目④	<p>中学生の体験学習、教員の職場体験、地域ボランティアの受け入れ等、可能な限り地域に貢献できるよう門戸を開放している。自治会にも加入し、会長を運営推進会議の委員に要請するなど地域からの意見や要望を広く取り入れることにより「地域に開かれた事業所」の実現に向けた取り組みが行われている。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でふれあいや情報交換の場を多く持ち、その人がその人らしく地域の一員として生活できるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員で理念を共有し、日々のミーティング等でも話し合いながら理念の実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の体験学習、教員の職場体験、地域ボランティアの受け入れ等地域に門戸を開放している。自治会にも加入し、運営推進会議のメンバーに自治会長を要請する等積極的に地域と交流を持つための取り組みが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を伝え、全職員の意見を聞きながら自己評価を実施した。外部評価の結果については会議において検討し書式や処理体制の変更等できるものから順次改善への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	早い段階から計画を進めてきたが、行政等との調整がつかず現在に至っている。ようやく開催できることとなり第一回が12月中に実施の予定である。	○	事業所の取り組み内容や具体的な改善課題、地域のため何ができるか等を話し合い、地域の理解や支援を得るための取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場に近い事もあり、運営推進会議の開催準備、運営基準・通達の解釈、事業運営等について指導を受け相談しているが、共同してサービスの質の改善に取り組むまでには至っていない。	○	事業所の考え方や現場の実情等、積極的に伝える機会を作り、お互いに課題を共有しながら直面するサービスの課題解決にむけて協議し、質の向上が図られることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については随時報告を行っているが、定期的には行われていない。預かり金についても利用者の使用頻度が少ない事もあり定期的な報告は行われていない。	○	利用者の暮らしぶりや健康状態、預かり金の収支報告について等、家族が知りたい情報を把握し「ホーム日誌」の送付と合わせ定期的に情報提供されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが面会や行事参加の時には、家族より個々に相談を受けている。苦情相談窓口も設置し出された意見・要望については職員ミーティング等で十分に検討し、対応可能なものについてはできる限り応じるよう支援している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動はユニット間の入れ替え等最小限に留めている。利用者には不安を与えないよう馴染みの職員によるケアを心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、資格取得研修等サービスの質の向上と個人の資質向上のため研修に参加することを奨励している。また内部においてもタイムリーなテーマを選び勉強会を開催するなど積極的な取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的なレベルではあるが地域の介護福祉事業者との交流機会を多く持ち、意見交換会等開催し協同しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを受けられるように事前面談でよく話し合い、徐々に雰囲気に馴染めるよう工夫しながら個別に対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意なことを職員と一緒にやる場面を作り、学ぶ気持ちと感謝を伝え、共に助け合い支えあう関係が築けるよう取り組んでいる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時において利用者・家族の希望・要望を聞き、また日々の生活の中においても寄り添い、見守りながら利用者から発せられる希望や性格の把握に努めている。把握した希望や性格は記録として残し職員間で共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見・要望をもとに職員や看護師と相談、意見を出し合いながら利用者の視点に立った計画を作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議において変化が見られるときは看護師や職員の意見も聞き、家族と相談しながら現状に即した新たな計画を作成している。基本的には三ヶ月に一度の見直しを行っている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望や状況に応じ、通院、買い物、墓参り等柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の診療を受けられるように利用者・家族と相談しながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に備えて家族やかかりつけ医と話し合い意向に副った支援が行えるよう医療との協力体制も整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議や申し送りで利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねることが無いよう常に話し合っている。個人情報の取り扱いについても慎重に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として一日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて、その日その時の過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れ、畑の収穫物を材料に組み入れる等献立にも工夫している。調理、盛り付け、後片付け等できる範囲で共に行い、楽しみながらの支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には週三回を目安としているが利用者の体調や気分に合わせて支援している。湯舟には毎日湯がはられているので希望があれば対応は可能である。しかし見守りが必要な利用者が多くなり、好きなときに一人ではいけない現状である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野で一人ひとりの力が発揮できるように感謝の言葉を伝えながら、調理、野菜作り、漬物作り、おやつ作り、習字等利用者の生きがいや喜びとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩、買い物、畑作り等利用者の体調や希望に配慮しながらも、可能な限り戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を充分理解しており、鍵を掛けないケアが実践されている。しかし帰宅願望が強く静止できないような状態の時は止む無く施錠するが、事後家族への説明は行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署立会いのもと避難、消火、人口呼吸法等訓練を実施している。災害時のマニュアルも完備され緊急時の連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れながら旬の食材、自家製の食材を使い栄養バランスを考えた献立となっている。常に水分は補給出来るように準備されている。夜間においてもペットボトルを持ち込む等配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は開口部が多く、一日を通して日当たりの良い設計となっている。食堂や居間も広く季節を取り入れた植栽や調度品を配置するなどゆったりと落ち着きのあるスペースが確保されている。日々の掃除だけでなく「桜木さんピカピカ運動」と名づけ大掃除を行い清潔な環境維持に努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込み、思い出の品や写真を掲示するなど家庭での環境を可能な限り壊すことなく、利用者が安心してゆったりとした時を過ごせるよう支援している。		